



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2023年11月5日 No. 114

あなたたちは真理を知り、
真理はあなたたちを自由にする。

ヨハネによる福音書8章32節・新共同訳



宣教40年の旅 -100%感謝して-

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙一 5章16-18節 a

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



さて、第一の朗読でお読みした、エレミヤ書 31 章 31 節以下に目を向けてみましょう。31 章の冒頭に「新しい契約」とあります。今日の日課でも、この新しい契約について、その理由を「わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す」としています。かつての契約は石の板に記されたのですが、これに対し新しい契約は、民の心に記されるというのです。

この部分を読んでいて、私はヨハネによる福音書で、主イエスが言われていることを思い起こしました。「聖書略（ヨハネ 14 章 20 節）」。エレミヤ書で言う、新しい契約が民の心に記されるとは、主イエスが私たちの内におられることによって実現したのではないかと思うのです。私たちがそれぞれの心に記された律法を思い起こし、それを守るのではなく、そのような人間の行い、努力にかかっていることではないのです。そうではなく、私たちの内におられる主イエスによって知らされた、新しい掟、「互いに愛し合いなさい」と教えられた、主の掟を守るようにと動かされる。これが新しい契約が実現することではないかと思うのです。

エレミヤ書に目を戻しましょう。34 節で「わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」と言われています。これこそ「新しい契約」がもたらすことにちがひありません。エレミヤ書において、それは民の心に律法を記すのだから、誰もが律法を遵守するようになるのであり、「彼らの悪を赦し、彼らの罪に心を留めることはない」とつながるのです。一方、主イエスの言われていることによると、それは民の心の内に主ご自身がおられるから、新しい主の愛の掟に従っ

て、互いに愛し合うことができるのです。「彼らの悪を赦し、彼らの罪に心を留めない」のは、ただキリストの十字架によるのです。

この神の御心、すなわち「ただキリストの十字架を通して、無償で神の義が与えられた」ことによって、「彼らの悪を赦し、彼らの罪に心を留めない」という約束が果たされたのです。この御心が真理なのであって、この神の御心が人となって、私たちの間に来てすまわれた、イエス・キリストが真理なのです。聖書を通して明らかとされる、真理が私たちを罪から解放し、あらゆるものから自由にするのです。

英語で自由には「何かを行うための解放」という意味合いがあるそうです。神が示された真理、キリストの十字架による罪の赦し、これら神の御心は私たちに罪の赦しをもたらし、自由にしました。このように真理が私たちを解放し、自由にしたのは、私たちが「何かを行うため」にちがひありません。それはルターが『キリストの者の自由』の冒頭で書いている通りです。「キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な君主であって、何人にも従属しない。キリスト者はすべてのものに奉仕する僕であって、何人にも従属する」。すなわち、神がその義を私たちにプレゼントしてくださり、私たちを解放されたのは、私たちが喜んであらゆる人々に仕えるようになるためなのです。ルターは『キリスト者の自由』の第 27 項で書いています。「私もまた、私の隣人のために一人のキリストとなろう」。神の真理、イエス・キリストがすべてに仕えられたように、すべての人々に仕える群れとして、喜びをもって遣わされてまいりましょう。(宗教改革主日)

聖書月間

好きな聖句を聞いて ○井○子 / 聖書月間によせて 永○○子

今年の聖書月間は、10月8日（日）礼拝後、時間を短く区切った開催となりました。事前にアンケートをお願いし、「好きな聖句」「理解しがたい、あるいは疑問に思う聖句」について、ご回答いただきました。その中から前者については、すべてご紹介し、後者についてはいくつかを取り上げ、牧師より解説をいたしました。（佐藤）

自分の心に刻まれたみ言葉だけでなく、皆様の選ばれたどの聖句も、私にとってその時、その場面で助けられたみ言葉であったと思ひ、感謝しています。これからもみ言葉に助けられ、日々力強く歩んで行きたいと思ひます。（○井○子）

皆さまの好きな聖句を聞き、心にひびく聖句が様々で、特に私と同じ聖句を選ばれた方が、全然違ったとらえかたなのが、興味深く楽しい時でした。欲を言えば、先生のお話をもう少し聞きたかったと。またの機会を！（永○○子）

●皆さんからお寄せいただいた「好きな聖句」

【旧約聖書】

ヨブ記 1章 21節
詩編 23編（2名）* 46編
コヘレトの言葉（伝道の書）
3章 1-8節* 3章 1-17節
イザヤ書 41章 9-11節 43章 5節
ミカ書 6章 8節

【新約聖書】

マタイによる福音書
5章 3節 11章 28節

22章 37-40節

ルカによる福音書 10章 27節
ヨハネによる福音書 12章 24節
ローマの信徒への手紙
8章 28節 12章 19節
コリントの信徒への手紙一
10章 13節 13章 1節
13章 4節～13節
コリントの信徒への手紙二 12章 9節
テサロニケの信徒への手紙一
5章 16-18節* 5章 16-21節

墓前礼拝

○谷○子

先日の10月15日（日）横浜墓地で秋季墓前礼拝が執り行われました。

前夜からの激しい雨で、ご参列の方はいつもより少なかったのですが、礼拝が始まる頃には、心配していた雨も止み、佐藤先生の司式に始まり、松岡先生の温かなお説教で、天に召された方たちと共に、私たち一つとなることができました。

今回は神学生デイビッド・ネルソンさんと河田礼生さん、共に4年生のお二人がお見えになりました。親子ほどに歳も離れていらっしゃるのですが、とてもユーモアたっぷりに自己紹介をしてくれました。ネルソン神学生は、5才の頃、北海道の教会で○野牧師ご一家とご一緒に、○野先生から堅信式を受けられたそうです。また、○野夫人からは「ご自分の子どもの様に可愛がっていただきました」「今でも○野夫人にとって自分は5才の子どものまんまです」と、嬉しそうに話され

ました。何だかその場が温かな空気に満たされ、良いひとときをご一緒させていただき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

●女性会だより

10月15日 13名出席

司会/祈り 江○姉 教団讃美歌 517番

1 聖書の学び

ローマの信徒の手紙 5章3～4節

「私たちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを」

苦難から始まり、苦難が希望に繋がっている。忍耐とは神様が忍耐して私達を待っていて下さる。

2 女性会例会

①連絡事項

秋の女性の集い 10月28日10時

15分～ 大岡山教会+オンライン

ACWC 11月17日 13時半～

神保町救世軍東京教会

You Tube での配信あり。

②報告

10月9日締切りの東教区女性会からのアンケート結果についての報告が○田姉からあった。

③藤が丘教会女性会会員の意見

活発な意見交換があり、様々なご意見をとりまとめて、女性会の今後についての話し合いに生かしていく。

(秋の女性の集いに藤が丘教会女性会としての見解を示し、また他の教会の女性会との意見交換をする、今後の活動に繋げていく。)

次回例会は11月19日

今月、受洗記念日を 迎えた方々

8日 ○野○子姉

15日 名○○代姉

おめでとうございます。



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」

テサロニケの信徒への手紙-5章16-18節a

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから。



●宗教改革日礼拝のこと

○野智○子

10月31日、市ヶ谷教会でおこなわれた宗教改革日合同聖餐礼拝に参加しました。平岡仁子牧師の司式により礼拝は厳かに進められ、祈りと讃美で礼拝堂と参加者の心が満たされました。また、サラ・ウィルソン牧師による「こんにちは、私の名前はカタリーナ・フォン・ボラです」と題された説教は、マルチン・ルターをその伴侶カタリーナ本人が紹介しているような新鮮なお話でした。

礼拝後、松岡俊一郎教区長は「ルーテル教会は改革する教会であることを確認した」とあいさつされ、李明生牧師からは世界ルーテル連盟の声明（10月11日発表）に基づいたエルサレムやガザの情勢報告をお聞きしました。今こそ”地上に平和をもたらしてください”と祈るときだと、静かに、でもしっかりと教えられた夜でした。